

テーマ:声翻訳機は敵か味方か？それとどう付き合うか？

今話題の音声翻訳機の効果的な取り組みについてです。

- ・ 音声自動翻訳なんて当たり前になるのか？
 - ・ 現在の語学教育に対して 見方なのか？ 敵なのか？
- どう位置付けていいか定義に困っている先生も居ると思います。

でも、まだまだ音声自動翻訳機だけでは自然会話にならない。これが現実です。

機械を間に入れての会話には、いろいろ課題はあります。

- 1)自分が話していることが、本当にちゃんと正しく訳されているのか？
 - 2)会話のキャッチボールのスピードが自然会話と比べて間が2)会話のキャッチボールのスピードが自然会話と比べて間が空く
 - 3)機械が聞き取れるように発音しないとイケない。
- など

じゃあ、音声自動翻訳機はダメなのか？と言うと、それも違います。

上手に、音声自動翻訳機を使っていけば、
海外から日本語を学ぶ外国人や生徒さまへの日本での生活にも、
自分自身の語学力アップにも、効果的です。

お客様事例になりますが
何より大事なのは、普段の会話の中から、
「日本語なら、どう言うのかな？」「英語なら、どう言うのかな」という関心・興味から
即答する音声自動翻訳機はその人の興味からの学習効果が高くなります。

あくまでも、補助として使うのが語学力アップなりにつながると考えております。

当社が推奨するAIを使った音声自動翻訳機は
翻訳が目的というより、日々の生活でその人の生活を助け、学習の助っ人としての役割です。

企業や学校で模索するテーマ「音声翻訳機の位置づけ・・・」でもあると思います。
一昨年出したポCKETークやイリーなどの機械は機能としては翻訳機だけの機能で使用頻度が翻訳の時だけといった機能で今もたくさん売られています。

翻訳機の現在では・・・Mayumi3(業界最新鋭機)

音声翻訳言語が 75 言語

翻訳履歴ログを使った文字お越し

グループ会議翻訳(～500 名)

録音翻訳

OCR 翻訳

カメラ翻訳

WIFI ルーター

ボイスレコーダー(35 時間)

Bluetooth

などの機能が日進月歩よくなって値段も安くなっております。

企業や学校は音声翻訳機の位置づけを<敵>と定義されると、企業で努めている社員や学校であれば生徒は陰で、ポケットクを使い、ある生徒はイリーを使うなど「のら犬」ならぬ「のら翻訳機」が蔓延します。

複数の「のら翻訳機」が混在することで企業や学校の日常生活や日常の勤務の対応ガイドラインにバランスを欠いた形になると思います。

もし、企業や学校が翻訳機の位置づけを定義し、推奨する翻訳機をお決めになることで、社員や学校の生徒様たちへの仕事の進め方や学習への進め方も明確になります。

Amazon 評価(4 つ星以上)

ポケットク : 54 点 <http://ur2.link/QIHR>

イリー : 58 点 <http://ur2.link/QIHU>

Mayumi3 : 95 点 <http://ur2.link/QII0>